

話題提供者・相談員のプロフィール & 申請者へのメッセージ

Philosophy and Cultural Sciences



田口 茂（倫理学講座・准教授）

専門は、西洋近現代哲学（特に現象学）、近代日本哲学。最近は神経科学者と共同で「意識」という現象の解明も行っている。学振申請書の指導経験豊富、審査員経験あり。🗨️ 自分の研究の意義を誇張しすぎると逆効果です。着実に説得力のある（静かな自信の滲み出るような）申請書を心がけるとよいと思います。

新川 拓哉（哲学・倫理学専修出身・H27PD/千葉大）

専門は、心の哲学。研究テーマは、意識についての包括的理論の構築。

🗨️ まったく分野の違う人が読んでスラスラと流れが追えるように書くのが大事です。



History and Area Studies

村田 勝幸（歴史文化論講座・教授）

専門は、アメリカ史・アメリカ研究。近年は、20世紀から現在までのニューヨークを対象に、アフリカン・ディアスポラへの人種主義的暴力とそれに対する抵抗運動を歴史学的に分析。🗨️ 説得力のある申請書を作るには、最大限シンプルな構成や記述にする勇気が必要です。難解な表現や盛りだくさんの情報で欄を埋めてしまいがちですが、誰にでもわかる平易な記述こそがアピール力のある申請書を可能にします。



安酸 香織（西洋史学専修・H27DC1）

専門は歴史学。アルザスの領土問題を対象として、近世ヨーロッパにおける地域と国家のあり方を研究。🗨️ 学振への申請は、これまでの研究を「客観的に」見つめ直し、今後の研究計画を具体的に立てるための好機。何度も書き直し、専門外の方にも読んでもらい、わかりやすい申請書を作り上げてください。



伊藤 資浩（心理システム科学専修・H29DC1）

専門は認知心理学。研究テーマは情報の取捨選択に関わる注意の制御について。🗨️ 審査員は細かい項目ごとに点数で評価し、その根拠も記述する必要があります。わかりやすい申請書を書くのは当然として、説得力かつ具体性のある好意的に評価されやすい申請書になるよう心掛けました。相談会では、私の経験が少しでもお役に立てれば幸いです。



Linguistics



池田 証壽（言語情報学講座・教授）

専門は、国語学、国語史。特に古辞書の国語学的研究、漢字コード開発に関する研究。学振申請書指導経験豊富、審査員経験あり。ゼミ生から採択者多数。

🗨️ 今は小さな成果であっても、それを積み重ねてゆくと、誰もが成し遂げたことのない大きな成果となります。自分のテーマに自信を持ち、大きな夢を計画書に盛り込みましょう。世界は、将来性のある研究者を求めています。学振特別研究員への申請は、皆さんの研究の未来を切り開く大きなチャンスです。是非ともチャレンジしてください。

李 乃琦（言語科学専修・H29DC2）

専門は、国語学です。特に日本古辞書と中国仏典音義に関する研究です。🗨️ 積極的に情報を収集し、分かりやすい申請書を書くのが大切です。

友達に草稿を読んでもらい、何度も修正すると良いものができますよ。



Literature



武田 雅哉（中国文化論講座・教授）

専門は、中国文化・文学。中国のマンガ<連環画>についての著書で、2017年度日本児童文学学会特別賞を受賞。同じテーマで科研費も実施中。

🗨️ 研究課題に自信と情熱があれば、あとはそれを、魅力的に相手に伝えるだけ。メリハリのある、わかりやすい日本語で書くというのは、小学生の作文と変わらない、基本中の基本だと思います。

宮澤 優樹（西洋文学専修・H30DC2）

専門はアメリカ文学。研究テーマは、幽霊を題材とした小説に見られるスピリチュアリティの検討。🗨️ 申請書を書くときは、これまでの研究と申請書の内容がなるべく呼応するよう意識し、図表の挿入や書式の変更といった申請書ならではの技術を積極的に用いました。多くの情報を収集し、活用することが重要なのではないかと思います。



Human Sciences

池田 透（地域システム科学講座・教授）

専門は、保全生態学、野生動物管理学、社会生態学、外来種管理問題。競争的資金の採択経験・指導経験豊富。🗨️ 専門以外の人にも内容が理解できるような丁寧な説明を心懸けるとともに、内容が一目で把握できるポンチ絵やインパクトのある図などの工夫も効果的です。抽象的な記述は避けて、研究の実現可能性を具体的にアピールしましょう。

